**・コマンド履歴を削除する(　history 　–c　)**

**●実習５－１．vimエディタのインストール**

**（１）vimをインストールする**

**sudo apt install -y vim**

**●実習５－２．viエディタの練習**

**（１）テキストファイルの作成**

**テキストファイル（vim01.txt）を作成し、保存する。**

①　vim エディタ起動　　 vim 　vim01.txt

※　画面の一番下の行に“vim01.txt”[New File]（または[新ファイル]）と表示される

②　モードの切り替え

　　　エディタ起動時は、コマンドモードになっているので、文字入力のため挿入モードに切り替える。

　i　を入力　（※　画面に　i は表示されず、画面の一番下の行に–-INSERT（または挿入）---　と表示）

　③　文字の入力 下記内容を入力する。　各行の最後には「Enter」 キーを押す。

|  |
| --- |
| Hello ubuntu Linux!!  iea2a99（クラス名番号）  名前（各自の名前） |

④　ファイルの保存と確認

　 　　文字入力時は、挿入モードになっているので、コマンドモードに切り替える。

　　　「Esc」キーを押す。

　 保存してエディタを終了するコマンド　：wq を入力（※　画面の一番下の行に :wq と表示さる）

※　vim01.txt ファイルが存在するかを確認し、vim01.txtの内容を表示して下さい。

**ls** 　　　　**cat vim01.txt**

**●実習５－３．viエディタの練習（HTMLファイルの作成）**

**（１）HTMLファイルの作成**

**HTML（kad05a.html）をホームディレクトリに作成し、保存する。**

**＊このファイルは、Webサーバー構築時に使用する。**

①　vim エディタ起動　　 vim kad05a.html

※　画面の一番下の行に“kad05a.html”[New File]（または[新ファイル]）と表示される

②　モードの切り替え

　　　エディタ起動時は、コマンドモードになっているので、文字入力のため挿入モードに切り替える。

　i　を入力　（※　画面に　i は表示されず、画面の一番下の行に–-INSERT（または挿入）---　と表示）

　③　文字の入力 下記内容を入力する。　各行の最後には「Enter」 キーを押す。

|  |
| --- |
| <html>  <head>  <title>Top Page</title>  </head>  <h1>Top Page</h1> |

|  |
| --- |
| <p> iea2a99（クラス名番号）Top page</p>  </body>  </html> |

④　ファイルの保存と確認

　 　　文字入力時は、挿入モードになっているので、コマンドモードに切り替える。

　　　「Esc」キーを押す。

　 保存してエディタを終了するコマンド　：wq を入力（※　画面の一番下の行に :wq と表示さる）

※　kad05a.html ファイルが存在するかを確認し、kad05a.htmlの内容を表示して下さい。

**ls** 　　　　**cat kad05a.html**

⑤　Webページの確認（メニューのファイル→ホーム）

　　作成したWebページの確認は、Ubuntuサーバーのブラウザ（Firefox）で確認する。

**●実習５－４．viエディタの練習（シェルスクリプトの作成と実行）**

**（１）シェルスクリプトの作成と実行**

**シェルスクリプト（kad05b.sh）をホームディレクトリに作成し、保存する。**

**シェルスクリプトについては第７－８章で実施する。**

①　vim エディタ起動　　 vim kad05b.sh

※　画面の一番下の行に“kad05b.sh”[New File]（または[新ファイル]）と表示される

②　モードの切り替え

　　　エディタ起動時は、コマンドモードになっているので、文字入力のため挿入モードに切り替える。

　i　を入力　（※　画面に　i は表示されず、画面の一番下の行に–-INSERT（または挿入）---　と表示）

　③　文字の入力 下記内容を入力する。　各行の最後には「Enter」 キーを押す。

　　 #!/bin/bash

cd

pwd

ls –l

④　ファイルの保存と確認

　 　　文字入力時は、挿入モードになっているので、コマンドモードに切り替える。

　　　「Esc」キーを押す。

　 保存してエディタを終了するコマンド　：wq を入力（※　画面の一番下の行に :wq と表示さる）

※　kad05b.sh ファイルが存在するかを確認し、kad05b.shの内容を表示して下さい。

**ls** 　　　　**cat kad05b.sh**

⑤　シェルスクリプト（kad05b.sh）を実行

**sh　kad05b.sh**

※上記以外の方法で実行しても良い

~

カレントディレクトリ内に、新規でディレクトリ「kad04」を作成する **（絶対パス指定）**

⑥　ホームディレクトリに移動する

　⑦　カレントディレクトリ内に、新規でディレクトリ「kad05」を作成する **（絶対パス指定）**

Mkdir kad05

history

カレントディレクトリ内に、新規でディレクトリ「kad04」を作成する **（絶対パス指定）**

⑧　コマンド実行履歴を表示する

⑨　最後に入力コマンドの履歴をkad05ディレクトリ内に「kad05.txt」の名前で保存する**（絶対パス指定）**

（ history > /home/ie2a99/kad05/kad05.txt　　　　 ）

⑩　ディレクトリ「kad05」にある**ファイル名の一覧を詳細表示する**

Ls kad05/

⑪　⑩の実行結果をコピーして、クライアント（Windows他）のkad05.txtファイルにペーストする。

⑫　⑪と同じようにkad05a.htmlファイル、kad05b.shの内容を表示し、コピーしてクライアント（Windows他）

のkad05a.html、kad05b.shファイルにペーストする。

　⑬　Tera Termをいったん終了して、本日のログが記録されているか確認する。

　　　　　ファイル名：クラス番号日付.log

**●課題提出**

**作成した4つのファイル（kad05.txt、kad05a.html、kad05b.shクラス名番号日付.log）を**

**「演習05\_クラス名出席番号名前」フォルダを作成して保存し、sv23の指定された場所へ課題を提出しなさい。**